

筑波大学基金

平成 23 年度活動報告及び平成 24 年度活動計画

23 年度活動報告

はじめに

昨年度、我が国は大震災、津波、原発事故という未曾有の困難に直面しました。

この困難を乗り越え、我が国の再生と持続的発展を実現するために、国立大学は以下の 4 つの機能強化に力を入れています。

- ① 卓越した教育の実現と人材育成
- ② 学術研究の強力な推進
- ③ 地域振興の中核拠点としての貢献
- ④ 積極的な国際交流と国際貢献活動の推進

筑波大学においては、大学または大学院課程で、分野を横断する学位プログラム等の実施・運営を行うことを目的として「グローバル教育院」を設置し、ヒトが人らしく生きる社会の創造を先導できる国際的トップリーダーの養成を目指した「ヒューマンバイオロジー学位プログラム」を開始しました。また「復興・再生支援ネットワーク」を構築して被災各地と復興に係る連携協定を締結し、加えて地域社会の発展に寄与するために各地方自治体と連携協定を締結しました。

このような先進的な取組みとともに、23 年 12 月には、筑波研究学園都市を核とする区域が、グリーンイノベーション、ライフイノベーションの拠点を目指した「つくば国際戦略総合特区」に指定されました。全国で 7 か所の特区のうち「つくば国際戦略総合特区」は唯一大学が推進母体の一角となっており、我が国のイノベーションを先導する上で大学への期待が一層高まっています。

筑波大学基金は、学生への支援を主な目的として発足しましたが、これらのことを背景として、今後は支援項目の整理・拡充を行い教育・研究活動及び社会貢献活動への支援を加えて、大学が行う幅広い活動を支援することを目指します。

■支援項目の整理・拡充

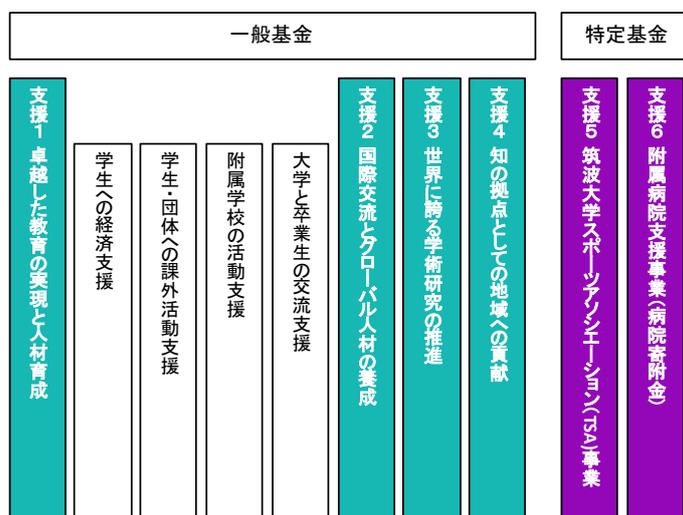
23 年度までの支援項目は、一般基金として、学生への経済支援、学生の国際交流支援、学生及び団体の課外活動支援、附属学校の活動支援、大学と卒業生の交流支援の 5 項目としていました。

24 年度からは、支援項目を整理・拡充して下記の 4 項目とします。

- 支援 1：卓越した教育と人材育成
- 支援 2：国際交流とグローバル人材の養成
- 支援 3：世界に誇る学術研究の推進
- 支援 4：知の拠点としての地域への貢献

このように整理・拡充して、学生支援に加えて大学本部が行う活動を幅広く支援できる制度に改め、多くの方々にご理解いただけるように努めて参ります。

また特定基金として、
 支援 5：筑波大学スポーツアソシエーション (TSA) 事業
 支援 6：附属病院支援事業（病院寄附金）
 の 2 項目を設定して、地域社会の幅広い方々のご支援をお願いして参ります。



■寄附募金の状況

昨今のグローバルな経済危機による景気情勢もあって、寄附募金の状況は順調であるとは言えません。しかし、こうした状況下でも多くの方々から温かいご支援を頂きました。これを背景に、23年度の基金事業室の活動としては、今後の展開を睨んで学内外の方々と交流に力を入れ、基金活動等大学の活動基盤となるネットワークの構築を目指して渉外活動に力を入れました。多くの方々に大学への理解を深めていただくことが、今後の寄附者拡大に繋がるものと考えています。

なお、基金設立の22年度と23年度は、基金の残高が十分ではなく、具体的な支援実績は、使途指定の寄附を除けば震災による被災学生への緊急支援に留まりました。

24年度以降は徐々に具体的な支援を行い、支援実績を積んでいくよう計画しています。

23年度の主な活動

23年度は、東日本大震災への対応の一環で、卒業生や地域の方々へ災害義援金を募り被災学生へ迅速な支援を行いました。また、前年度に続いて基金の制度や仕組み作りなどの体制整備を進めるとともに、基金活動の基盤となる卒業生や地域企業を訪問して大学とのネットワーク構築に力を入れました。

■東日本大震災による被災学生への支援

学内外の幅広い皆様からご支援いただいた筑波大学被災学生への義援金募金は、個人 713件、法人 32件、合わせて 745件、合計 22,117,127円でした。

本学では、180名の被災学生に対して、入学料免除、授業料免除、寄宿料免除などの経済的支援を行ってまいりました。そのうち、皆さまからの義援金を支給した被災学生数は126名、支給金額は21,750,000円となりました。

【寄附の制度や仕組みに係る活動】

■ホームページ及びパンフレットのリニューアル

支援項目の整理・拡充に合わせて筑波大学基金のホームページを手直しし、より分かり易くより利用しやすい画面に切り替えました。同時に、英語サイトも立上げましたので、幅広い方々にご支持いただけるものと考えています。またパンフレットは、大学情報の広報的な要素を加味したものに改訂して学内外の方々に分かり易くしました。

■クレジットカード決済による「継続寄附」の導入

前年度には、学内の教職員が寄附をし易い制度として給与控除（天引き）による寄附制度を導入しています。今年度はこれに加えて、学内外の方々に継続的に寄附して頂けるようにクレジットカード決済による「継続寄附」を導入し、月々一定金額を自動的に寄附して頂ける仕組みも導入して利便性の向上を図りました。

■古本募金（書籍等を用いた寄附制度）の導入

現金による寄附に加えて、使わなくなった書籍（DVD、ゲームソフトを含む）を用いて寄附していただける制度として「古本募金」制度を導入しました。新たな寄附方法として、多くの方々に参加を呼びかけています。



■財物によるご寄附

大学の重要な役割である教育・研究・診療環境や施設・設備を充実するために、現物によるご支援もお願いするようにしました。

前期は、戸田艇庫に漕艇部同窓会「桐漕会」より「土方リユニオンホール」が寄贈されました。また、一の矢学生宿舎に非常用の井戸の寄贈など施設・設備のご寄附も頂いています。



寄贈された土方リユニオンホール



落成式後の記念撮影

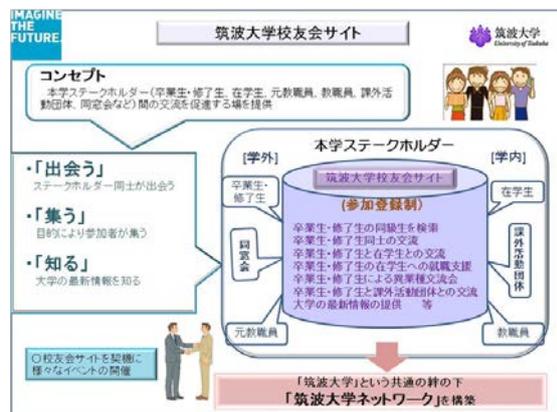
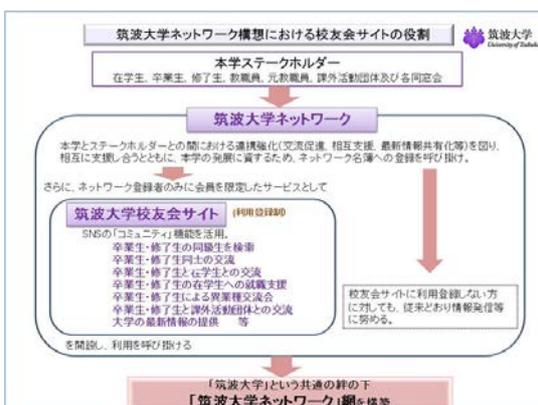
【情報発信・交流促進活動】

基金活動の基盤となるネットワークを作るために、23年度は学外への渉外活動に積極的に取り組みました。このような活動を継続することが、卒業生とのネットワークの拡大や地域との交流を深めていくことにつながり、知の拠点としての大学と学外との相互の発展に貢献できるものと考えています。

■卒業生とのネットワーク

筑波大学校友会

卒業生・修了生に限らず現役生、教職員等をも含めた筑波大学校友会の構築を目指しています。学群卒業生では、約10,000名の方々に登録して頂き、23年6月を第一号として年4回発行するメールマガジン『ペデジャーなる』を配信するなど大学情報を発信しています。また、これらの方々相互の情報受発信及び交流の場として、筑波大学校友会の交流サイトを準備しています。ネット上のコミュニティーへの参加を呼びかけることで、大学関係者相互の交流を深める狙いです。



筑波大学出身経営者の会（仮称）の立上げ

経済界で活躍する筑波大学出身の企業経営者の会（仮称）を立ち上げる準備を進めています。ビジネス研究科の教員の方々の協力のもとで、経済、法律、健康、趣味などの話題提供を行うとともに、大学と卒業生との交流の場を通して相互のより良い発展を目指します。今後、筑波大学校友会の一環として、これらの卒業生とのネットワークを拡大していく計画です。5月に、第一回の会合を開催する予定です。



世話役会の様子 東京キャンパス文京校舎にて

■地域との交流

山田信博学長を囲む会

平成 21 年 9 月にスタートした山田信博学長を囲む会は、大学からの情報発信ならびに地域の方々との交流の場として、金融機関を含む地域の企業経営者の入会が増えつつあります。参加企業の中には、学生のインターンシップ受入れを表明される先がでてくるなど、大学への理解が深まっています。これらの企業と大学とが将来何らかの協働によって地域社会の発展に貢献できるハブに発展させていければ良いと考えています。



学長を囲む会での講演会



懇親会の様子

ロータリークラブなど

3 月の大震災による被災学生への義援金募金に際して、地域のロータリークラブや商工会等多方面から義援金を頂きました。特にロータリークラブについては、海外の 2 つを含む 7 つのクラブから多大なご支援を頂きました。

また、これらのクラブ関係の交流活動や社会奉仕活動に参加を希望する筑波大学留学生を紹介することに加え、大学教員の方々にクラブで講演していただくなど交流が深まりつつあります。その他にも、筑波大学の留学生へ奨学金を支給して頂いている 15 のクラブを訪問して関係を深めました。



ロータリークラブからの義援金の受贈



感謝状の贈呈

その他、地域との交流を深めることを目的に、県下全域の商工会議所、商工会、経営者協会等の経済団体約 50 団体を訪問し、筑波大学の教育・研究、及び社会貢献活動の紹介をするとともに、技術相談や共同研究ができることを紹介し、大学を身近に感じて頂けるように努めました。この活動の結果、地域の商店会と大学教員及び学生が協働で、地域商店街活性化のプロジェクトに取り組む事例も見られました。

筑波大学アソシエイト制度

筑波大学の諸活動を促進するために、自発的に大学をご支援いただける卒業生や地域などの個人及び団体を筑波大学アソシエイトに認定し、アソシエイト証を発行してそのご支援を顕彰する制度が導入されました。

これはアソシエイトの方々と本学との緩やかなネットワーク構築を目的としています。アソシエイトに認定されますと特別の待遇が付与されます。

『寄附支援アソシエイト』

ご寄附によりご支援いただく個人や団体を寄附支援アソシエイトといいます。一定額以上のご寄附をされた方は、自動的に寄附支援アソシエイトと認定されます。

『活動支援アソシエイト』

知識・技能等を無償で提供することによりご支援いただく個人や団体を活動支援アソシエイトといいます。

平成 24 年 4 月 1 日現在の認定状況

	寄附支援アソシエイト		活動支援アソシエイト		
	個人	団体	運営支援	教育支援	医療支援
プラチナアソシエイト	7	1	8		
アソシエイト	75	13		12	32

平成 23 年度 筑波大学基金実績報告

基金設立時からの累積寄附額（入金ベース）

平成 22 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

寄附総額 191,895,389 円 4,353 件（延べ寄附件数）

		単位：円	
収 入		支 出	
区 分	合 計	区 分	合 計
現金による寄附	122,033,182	震災義援金等による支援	22,250,000
震災義援金	22,117,127	システム情報工学研究科学生支援	3,000,000
運用益	134,930	体育専門学群支援	3,000,000
財物による寄附（評価額）	34,413,150	附属図書館見舞金	60,000
		附属図書館支援	500,000
特定基金 嘉納治五郎生誕150周年事業	9,190,000	嘉納治五郎生誕150周年事業	9,190,000
東京盲啞学校発祥の地 日本点字制定の地記念事業	4,007,000	東京盲啞学校発祥の地 日本点字制定の地記念事業	4,007,000
	合計 191,895,389		合計 42,007,000
		差引収支額	149,888,389
		うち現金収支額	115,475,239

【収入の部の補足】

運用益内訳

単位：円		
譲渡性預金利息	126,575	70,000,000円（23/6/2～24/2/28の300日間預入）
普通預金利息	8,355	寄附がある都度 預入
合計	134,930	

24 年度は、100,000,000 円を 1 年間期越えの譲渡性預金または大口定期預金で運用する計画です。

財物による寄附内訳

単位：円		
寄附者	評価額	内容
漕艇会（漕艇部後援会）	26,620,650	戸田リユニオンホール
附属小学校後援会	7,192,500	附属小学校廊下屋根、トイレ
個人	600,000	一の矢宿舍井戸
合計	34,413,150	

教職員向け給与控除（天引き）による寄附残高

教員	59人	
事務職員	37人	寄附額 計 3,429,000円

クレジットカード決済による継続寄附残高

（平成24年1月24日開始）

3月末現在	1件	寄附額 計 1,000円
-------	----	--------------

古本募金

（平成24年2月1日開始）

3月末現在	延べ9件	1,349冊	寄附額 39,210円
-------	------	--------	-------------

寄附参加率

卒業生の寄附参加率	0.63%
<u>636人</u>	（実人数）
約 100,000人	（筑波大学の卒業生・修了生概算総数）

筑波大学卒業生のうち卒業生ネットワークへ登録があり所在把握ができている卒業生数は約10,000名です。これは卒業生・修了生全体の1/10に過ぎないので、大学からの情報が卒業生全体に伝わり難い状況です。このため卒業生の寄附参加率が低いものと思われます。

【支出の部の補足】

震災義援金等による支援内訳

内訳	支援金額
附属図書館支援	500,000
被災学生支援	21,750,000
合計	22,250,000

体芸図書館1階の転倒した書棚



義援金を支給した被災学生数

被災状況	支給者数
全壊	16
半壊	25
床上浸水	
一部損壊	67
死亡	1
失職	
経営が成り立たない	12
勤務先の被災により見通し立たず	
原発避難	5
合計	126

〈23 年度実績〉

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

81,626,027 円 2,116 件

寄附内訳

		単位:円
現金による寄附	26,127,250	1437件
財物による寄附	34,413,150	4件
災害義援金	21,085,627	675件
合計	81,626,027	

基金事業の活動経費

基金活動に係る印刷費、郵電費、人件費等は大学予算で賄っており、寄附金からの支出はありません。

また、現金による平均寄附金額は 17,686 円（うち個人：14,404 円）でした。

これに対して基金活動にかかった費用は、人件費を除くと、振込手数料、パンフレットやお礼状の印刷費、記念品等で、寄附 1 件当たり 2,735 円となっています

グラフで見る寄附の実績 23年度分

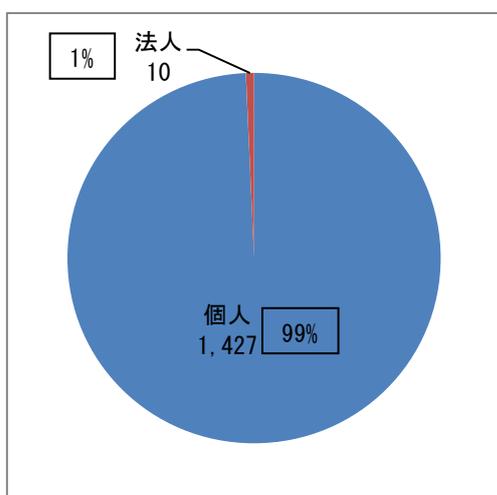
※開学30周年記念事業後援会からの寄附5,000万円を除く

※財物による寄附・災害義援金を除く

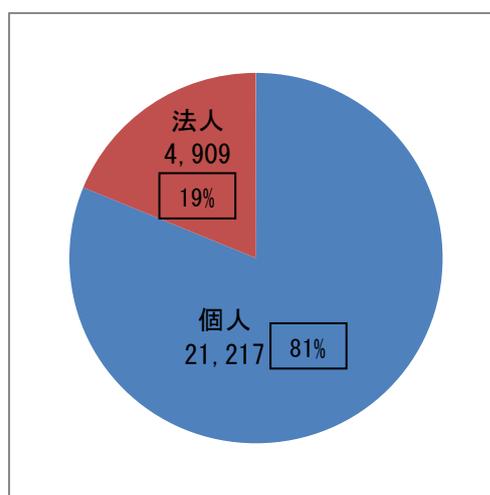
※寄附件数は、延べ件数

1. 寄附者内訳（個人/法人）

【件数】（単位：件）

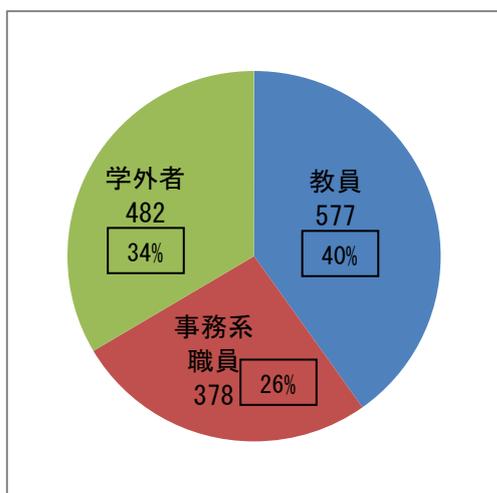


【金額】（単位：千円）

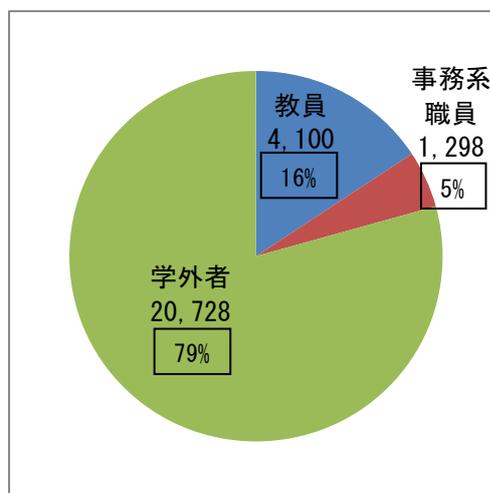


2. 寄附者内訳（学内教職員（教員・事務系職員）/学外者）

【件数】（単位：件）

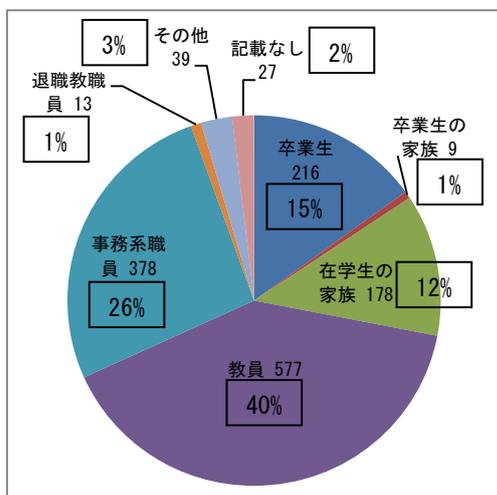


【金額】（単位：千円）

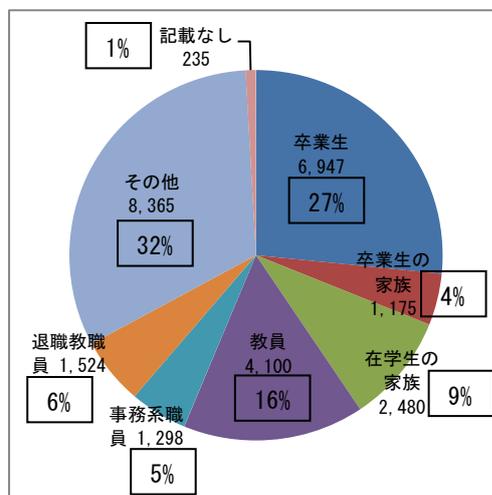


3. 寄附者属性

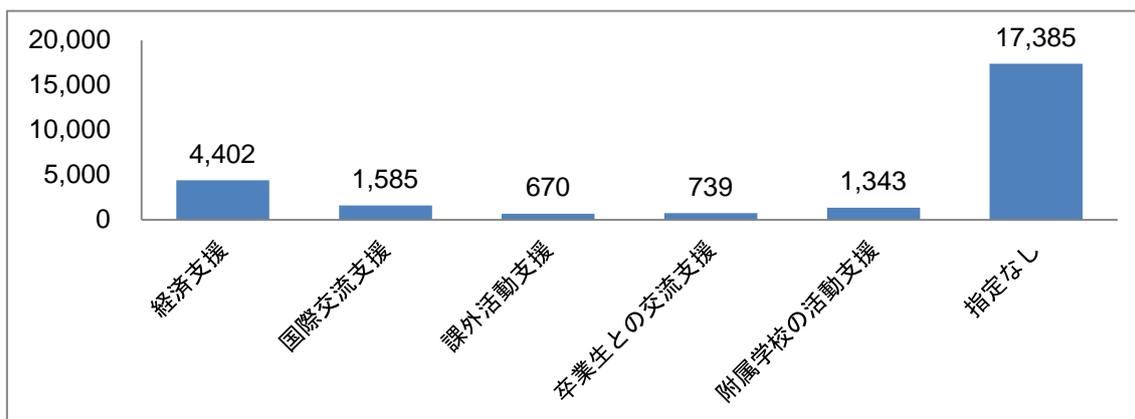
【件数】(単位：件)



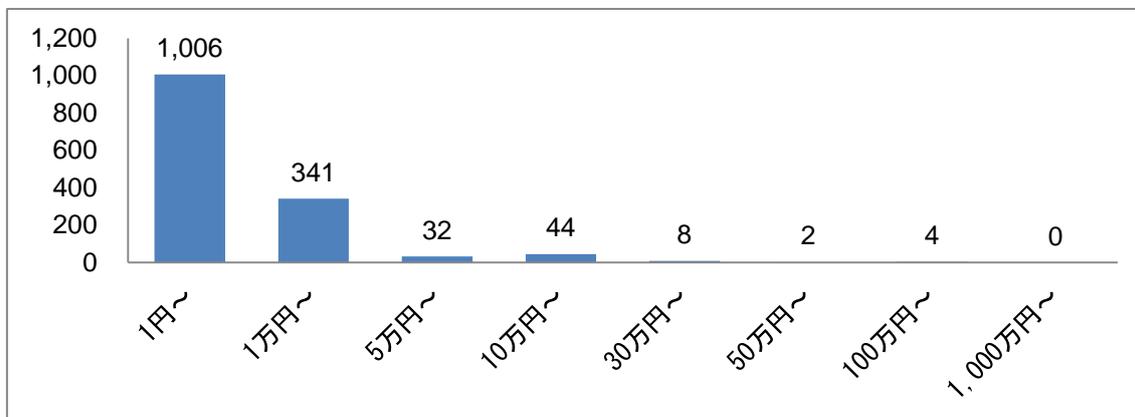
【金額】(単位：千円)



4. 寄附目的の内訳 (単位：千円)



5. 一件当たりの寄附金額の分布 (単位：件)



24 年度活動計画

24 年度は、大学と卒業生・修了生及び地域とのネットワーク構築に力を入れて参ります。特に、卒業生・修了生に係るネットワーク作りは急ぐ必要があると考えています。この活動を通して、基金事業の基盤が拡大していくものと考えております。

1. 卒業生・修了生

- ◆ 24 年度は、大学院修了生にも筑波大学校友会への登録を呼びかけます。校友会の公式サイトを立ち上げ大学関係者が集う場を提供し、一方、Facebook の公式サイトを立ち上げ大学からの情報発信を充実させる計画です。
- ◆ 校友会の一環として卒業生・修了生の皆様が顔を合せて情報交換し大学との交流を深めるために、経済界で活躍する卒業生を対象とした筑波大学出身経営者の会（仮称）を立ち上げます。この集まりでは、教員の方々の協力で、卒業生にとって有益な情報を発信し、また卒業生の意見を吸い上げ、双方にとって有益な会になるよう努めます。留学生に関しては、帰国後に彼らが母国で結成している校友会との連携も模索して参ります。
- ◆ ホームカミングデーでは、卒業後 20 年目の卒業生に加えて多くの卒業生の方々に参加して頂き大学との絆を深めていただけるように、開学 40 周年事業にも関連させて開催方法を検討しています。

2. 地域・企業

- ◆ 渉外活動のなかで「筑波大学アソシエイト制度」を紹介し、本学の幅広い活動に賛同しできる限り多くの方々に筑波大学アソシエイトになって頂いて大きなネットワークが形成されるように努めて参ります。
- ◆ 「山田信博学長を囲む会」は、学外の会員数が約 170 名程度に拡大してきています。3 か月ごとの例会への学外出席者は 40 名～50 名程度ですが、大学の研究活動などを幅広く紹介していることから、関心を持って新たに参加される地域の企業経営者が増えてきています。今後は、23 年末の国際戦略総合特区指定を受けてイノベーションへの関心が高まっていること、附属病院の新病棟建設が進み大学への期待が高まっていることを踏まえて、一層の会員の拡大に努めます。
- ◆ 留学生支援を始め多大のご支援を頂いている 15 のロータリークラブとも交流を深めることは言うに及ばず、その他様々な組織との連携も模索し大学と地域とのネットワーク拡大に努めます。

3. 基金による支援の実施

24 年度については、23 年度までの支援項目に基づいて 10,000,000 円を支援致します。具体的には、つくばスカラシップ制度（※）を利用した日本人学生の短期留学支援、留学生・日本人学生への緊急支援、学園祭・宿舍祭への支援、大学と卒業生の交流支援、附属学校への支援を予定しています。

25 年度以降の支援については、前年度の現金寄附額の約 50%を支援に使うことを基本方針

として、関連部署とも協議の上、新たな支援項目に基づいて効果的・戦略的な支援を検討し実施する計画です。

24年度の支援計画

区 分	金 額	内 容
日本人学生への短期留学支援	5,000,000	つくばスカラシップ制度 を利用した支援
留学生・日本人学生への緊急支援	1,700,000	
学生・団体等への課外活動支援	1,300,000	学園祭・宿舍祭等
大学と卒業生の交流支援	1,000,000	ホーム・カミングデー等
附属学校の活動支援	1,000,000	
合計	10,000,000	

※ つくばスカラシップ制度とは、留学生に対する経済支援、学生への海外留学支援及び緊急時の学資支援を行うことにより、安心して勉学に専念できる環境を確保することを目的とした大学予算を財源とする大学独自の奨学金制度です。

4. 募金活動

筑波大学の基金活動を広く周知し協力を得るために、募金活動の一環としてパンフレットを下記の要領で配布する計画です。

配布先・事項等	部数
全教職員（附属学校を含む）	4,000
入学式来場の保護者（附属学校を含む）	3,000
卒業式来場の保護者（附属学校を含む）	1,000
名誉教授	700
雙峰祭（学園祭）来場者	1,000
ホームカミングデー参加者	500
茗溪会会報送付時に同封	40,000
紫峰会会報送付時に同封	2,000
大学主催イベント （各種フォーラム、40周年冠事業等）	随時
地域のロータリークラブ等 学長を囲む会出席者等	1,000

また、筑波大学校友会の交流サイトを利用して周知します。

- ① 「筑波大学交流サイト」トップページ及び会員ページへ、筑波大学基金サイトのバナーを配置します。
- ② 交流サイトの最新ページへ筑波大学基金サイトの最新情報を投稿掲載します。

5. 開学40周年に向けて

平成25年度は、筑波大学開学40周年に当たります。大学では、40周年記念事業について

様々な検討が行われており、連携・渉外室としても卒業生の皆様との絆を深め、また地域の方々との交流を深める絶好の機会として寄附募金につなげたいと考えています。



1.ブランド・アイデンティティ

筑波大学は未来を構想し、その実現に挑むフロントランナーです。

2.ブランド・コンセプト

筑波大学は開かれた大学，学際融合・国際化への挑戦を建学の理念とする，未来構想大学と自らを位置づけます。文系・理系から体育，芸術に及ぶ学問を探究し，グローバル・リーダーの育成を目指す，真の意味での総合大学＝University です。

最先端研究拠点 TSUKUBA の中核として，人類が共存共栄する世界の実現に向かって行動します。

3.ブランド・スローガン

IMAGINE THE FUTURE.